



少年育成センターだより

令和3年12月10日

第25号

坂出市少年育成センター  
坂出市久米町1-18-20

TEL 46-2777  
FAX 46-7140

「日本人がもつ『美しい心』の継承」健全育成作品

坂出市少年育成センター 所長 勝浦隆史

平素より、青少年の非行防止や健全育成活動及び少年育成センターに対するご理解と、ご協力をいただいております。子どもたちは、今年度、コロナ禍で

2年目の学校生活を送ることとなりました。今夏には第5波の急激な感染者増加もあり、多くの学校で行事や活動等が見直しや制限をされたり、マスクの着用や手洗い、3密の回避など、感染症対策のための行動が強化されました。家庭においても自粛生活が続き、見えないところで、大きなストレスや不安が子どもたちの心の中に溜まってきているのではないのでしょうか。文部科学省から10月に公表された

「令和2年度 児童生徒の問題行動・不登校調査」では、いじめ件数は減少したものの、不登校児童生徒や自殺者の数は残念ながら増加していました。心配なのは、いじめなどのトラブルはなく、学業や友人関係などに目立った問題がないにもかかわらず、「なんとなく不安」と教室に入れない、具体的な理由のない不登校が増えているという事です。今後、教員が連携し悩みを受け止める対応がさらに求められる中、学校現場では密は避けても心のつながる教育活動をと、教員が知恵を出し合い、家庭や地域と協力し工夫しながら実践されていました。

このような不安な状況の中ではありましたが、メダルラッシュに沸いた「東

京2020 オリンピック・パラリンピック」は記憶に新しいところです。中でも、大会期間中における会場内での消毒や清掃作業等、また沿道での案内・誘導等、ボランティアの方々の献身的な姿に世界から絶賛の声が届き話題となりました。素晴らしい「ホスピタリティ」(接客や接遇の場面での「おもてなし」の行動や考え方)の精神に感銘を受けました。「ホスピタリティ」は、「相互に満足感を得たり、助け合

ったり、共に何かを創りあげることができ、それによって社会が豊かになっていく」という意味でも重要であるということです。日本の伝統文化である「おもてなし」。日本人がもつ「美しい心」を、若い世代にも受け継いでいってもらいたいと願います。

最後になりましたが、今回の作品募集におきましても、たくさんのご応募をいただきました。学校での健全育成への呼びかけとともに、熱心に作品作りに取り組んでくださった児童・生徒の皆さんに感謝いたします。本当にありがとうございます。今回寄せられた609点の健全育成のポスターや標語・作文は、どれも感性の鋭い豊かな心の表れたものばかりでした。そのうちの優秀作品を掲載しましたので、ご覧頂ければ幸いです。

今後とも、将来の坂出市を担う青少年の成長を温かく見守っていただきますよう、よろしくお願い申し上げます。



優秀作品の展示

R3.11.8~11.12  
小学校の部



R3.11.15~11.19  
中学校・高校の部

	ポスター			標語			作文			合計
	応募	特選	入選	応募	特選	入選	応募	特選	入選	
小学校	91	5	20	225	8	22	57	3	10	373
中学校	37	3	8	117	5	9	41	3	5	195
高校	6	1	1	32	1	5	3	0	0	41
合計	134	9	29	374	14	36	101	6	15	609

応募総数・入賞者数

青少年の健全育成作文・特選作品

「ぼくの本当の気持ち」

附属坂出小三年 新居 煌士

ぼくは毎朝、学校に行く前に「行ってきます」というとお母さんに「走らないでよ」と言われます。毎日毎日、同じことばかり言われます。「わかつとるよ」と言っ  
て出かけます。学校の西門の信号には、いつも宮本のおっちゃんがい  
います。「おはようございます」と  
言う前におっちゃんの方が先に  
「おはよう」と言うことが多いです。  
ある朝、おっちゃんが信号のと  
ころにいなくなり、ふく校長先生  
が見守ってくれていました。それ  
から何日かすると、先生から「宮  
本のおっちゃんは、こしがいたく  
て立てなくなりました。おっちゃ  
んが元気になるように手紙を書き  
ましょう」と言われてとても心配  
になりました。このまま、おっ  
ちゃんと会えなくなるのかなと  
か、寒い日はカイロで手をあたた  
めてくれていたのもなくなるのか  
など思いました。信号のところ  
に行けば、おっちゃんにあいさつを  
して「元気か？さむいな」と少し  
だけ話をしていたことは、ふつう  
のことではないのだと思いました。  
おっちゃんは、あつい日もさむい  
日も雨の日も風の日もいつもいま  
した。それなのに、ぼくはちゃん  
とあいさつもできてない日もあつ  
たり、見守ってくれていることに

かんしゃもできていませんでした。それにおっちゃんに手紙を書くときも、どんなふうに書いていいのかわからなかったから「おっちゃん、早く元気になってね」としか書きませんでした。おっちゃんはぼくの手紙を読んでも元気がならないかもしれないとずっと思っていました。

でも三年生になって学校に行くと、またおっちゃんが信号のところ  
で立っていました。最初はふく校長先生かなと思ったけど、よく見ると白いぼうしをかぶっているから宮本のおっちゃんでした。いつもは走らないとお母さんとよくそくをしていたけど、その日はうれしくて少し走ってしまいました。そして、おっちゃんに「おはようございます」とおっちゃんよ  
り先に言えました。おっちゃんにこしが良くなったかも聞きました。おっちゃんはまた、毎朝、西門で待っていてくれるみたいです。

ぼくはまだ、宮本のおっちゃんに「いつもありがとう」との気持ち  
を言えていません。まだちよつとはずかしくて言えないけれど、いつか「ありがとう」をちゃんと  
言いたいです。



青少年の健全育成作文・特選作品

「お父さんの家庭菜園」

坂出小五年 大前 葵

私のお父さんは、庭でいろいろな野菜を作っています。今の時期ならオクラ、ミニトマト、いんげん、きゅうり、ナス、枝豆、ゴーヤなど、毎日ザルいっぱい収か  
くしています。仕事から帰ってくると、野菜の水やり、手入れ、収  
かくを毎日欠かさずしています。夏は汗びっしょり、蚊に刺された  
り、冬は風が冷たく指先がかじか  
んだり野菜を育てることは簡単  
なことではないことは私にも分か  
ります。

お父さんが家庭菜園を始めたのは、私が小学生になったころです。坂出市の家に引っこししてきて、ずつと作って見たかったことを知りました。「なんで、野菜を作るん」とある日私が聞いてみる  
と、お父さんは、「新鮮で無農薬の野菜がいいだろう」とニコニコしながら言いました。お父さんは家族のために、とれたて新鮮の無農薬で体にいい安全な野菜を食べ  
させたいと思いを込めてつくって  
いることが分かりました。家族の  
ことを一番に考えてくれてるん  
だと思いました。私と妹も学校が  
休みの時、野菜の水やりや収かく  
など私たちができることをお手伝  
いとしてやっています。お父さん  
が「お手伝いありがとう。助かつ

た」と言ってくれます。私は、お父さんの役に立てることがとても  
うれしいです。

それから収かくした野菜をお母さんが料理して出してくれました。わが家の食たくには色とりどりの野菜がならんでいて、家族みんな  
で囲んで食べています。私はお父さんの野菜に何もつけず、そのま  
ま食べるのが一番好きです。収か  
くしたての新鮮な野菜は、とても  
あまくておいしいです。お父さん  
の野菜を食べるようになってから、  
私も妹も好ききらいがへり、いろ  
いろ食べられるようになりました。  
お父さんが家族のことを思いなが  
ら一生けん命つくっているすがた  
を見ているので、大切に食べてい  
ます。また、野菜がいっぱい収か  
くできた時は、近所のおじさん、  
おばさんのところに持って行きま  
す。「おじさん、おばさん、野菜  
どうぞ」と持って行くと、「あり  
がとう。きれいな野菜やね」と喜  
んでくれます。そして、「また背  
のびたんかな。大きくなったね」と  
いろいろな話をするので、近所  
の方々との交流も増えます。みん  
なの笑顔が増えます。

そんな家庭菜園をするお父さんは、私の自慢  
です。家族や近  
所の方々、いろ  
いろな人に囲ま  
れて、私は幸せ  
です。





東部小4年 道北 花奈



附属坂出小3年 木谷 悠人



加茂小2年 山中 志結



東部中2年 寒川 汐莉



東部小6年 尾松 希絆



附属坂出小5年 木谷 彩乃

青少年の健全育成ポスター・特選作品



坂出工業高1年 石井 絢蔵



白峰中3年 大西 芽衣



東部中2年 横田 さくら

青少年の健全育成  
標語・特選作品

ありがとう きみのえがおで 元気になれる

坂出小一年 曾根 湊丞

コロナでも 心と心は みつが いい

川津小二年 大林 璃沙

家ぞくはね いつもわたしの おうえん団

加茂小三年 山中真悠子

はい、やります！ ぼくは毎日 ボランティア

東部小四年 竹一 竜也

ネットより ぼくらといっしょに 話そうよ

川津小五年 佐藤 大仁

書きこんだ 言葉は消せない SNS

坂出小五年 益繁 結衣

「助けて」と 言える社会 築こうよ

西庄小六年 山本 実果

ごめんねは 心のきずの 絆創膏

加茂小六年 米田 吏織

ありがとう 出されたその手 嬉しいな

坂出中一年 黒田 真也

ネットの中 足りないのは言葉？ いえ、心です

附属坂出中一年 山内 創太

ありがとう 言って言われて いい気持ち

瀬居中二年 行成 仁

笑顔咲く 元気なあいさつ 感謝の気持ち

東部中二年 中澤 龍音

消せないよ 文字も写真も 後悔も

附属坂出中三年 神余 瑠志

考えて 気持ちの軽さと 言葉の重さ

坂出第一高一年 長野 実夢

ポスターの部 入選者

標語の部 入選者



- |               |               |
|---------------|---------------|
| 辰巳 結 (附坂小一年)  | 山内 拓真 (坂出小一年) |
| 山西さくら (東部小二年) | 武村 侑佳 (東部小一年) |
| 只野 葵 (東部小二年)  | 塩田 岳斗 (東部小一年) |
| 梅川 流碧 (東部小三年) | 後藤 陽菜 (加茂小一年) |
| 田中 琴乃 (東部小三年) | 中屋敷俊介 (附坂小二年) |
| 橋本 風花 (林田小三年) | 長島 慧 (金山小二年)  |
| 酒井 汐織 (加茂小三年) | 野村 駿 (林田小二年)  |
| 澤田 零 (加茂小三年)  | 澤田 蓮 (加茂小二年)  |
| 池内 弥嶺 (坂出小四年) | 鈴木 絢大 (川津小二年) |
| 森 誠真 (東部小四年)  | 玉内 璃空 (川津小二年) |
| 香川 瑛音 (東部小四年) | 寺田 優花 (附坂小三年) |
| 池田 莉緒 (坂出小五年) | 伊藤 陽一 (坂出小三年) |
| 小原 沙菜 (東部小五年) | 山城 沙衣 (川津小三年) |
| 宮本 遥貴 (東部小五年) | 福岡 良祐 (東部小四年) |
| 山中 斗愛 (東部小五年) | 佐々木奏人 (林田小四年) |
| 安藤 楓 (西庄小五年)  | 中村 龍馬 (林田小五年) |
| 佐藤 鈴華 (林田小五年) | 高木 結衣 (坂出小六年) |
| 紺谷 悠斗 (坂出小六年) | 井上 蓮華 (加茂小六年) |
| 三谷 茉緒 (加茂小六年) | 松葉 心 (府中小六年)  |
| 綾井 瑞桔 (松山小六年) | 上原 颯仁 (府中小六年) |
| 三木 陽生 (附坂中一年) | 東田 旺典 (川津小六年) |
| 三宅 桜子 (附坂中一年) | 河合 美波 (松山小六年) |
| 武内 優介 (東部中二年) | 稲毛 光汰 (坂出中一年) |
| 中井 優月 (白峰中二年) | 新開 美月 (坂出中一年) |
| 谷本 玲奈 (白峰中二年) | 後藤 彩那 (白峰中一年) |
| 奥村 真桜 (東部中三年) | 田上 智梨 (坂出中二年) |
| 高橋 郁美 (東部中三年) | 塩崎 天音 (東部中二年) |
| 好井 聖陽 (白峰中三年) | 佐藤 諒明 (附坂中三年) |
| 高畑 光汰 (坂工高一年) | 壽福 爽 (坂出中三年)  |
|               | 原岡 翔瑛 (東部中三年) |
|               | 鎌田 零玖 (白峰中三年) |
|               | 久保 謙介 (坂工高一年) |
|               | 加藤ひなみ (坂商高一年) |
|               | 西田 夢果 (坂一高一年) |
|               | 牧田 真奈 (坂一高一年) |
|               | 樋口 愛乃 (坂一高一年) |

青少年の健全育成作文・特選作品

『いがみ合う』とはなく  
『ただえ合う』

附屬坂出小六年 中川 了今

「やったー！」日本卓球界初の金メダルを獲得した瞬間、僕は嬉しくて叫んでいました。水谷隼選手と伊藤美誠選手の混合ダブルス決勝試合。日本が中国に初めて勝利したのです。

コロナ禍の中、東京オリンピックが五十七年ぶりに日本で開催されました。賛否が分かれた中での五輪は、感染対策やさまざまな問題を残しました。そのひとつがSNSの誹謗中傷です。日本人選手が、世界一位の中国最強ペアを倒したことで、「〇ね、くたばれ、消えろ」など、すごい数のメッセー

ジの悪口や嫌がらせを受けていることが明らかになりました。卓球選手以外にも体操・テニス・サーフィン・水泳の選手が誹謗中傷の標的にされ、差別的な書き込みや採点に対する不満の書き込みで選手を追い詰めていることを知り

人は卑怯だ！自分は、顔も名前も何ひとつ情報がバレーに嫌いな相手を攻撃できるけど、攻撃を受けた相手はメンタルをやられてしまう。人生を変えてしまうことだつてある。それ、面と向かって言えるん？本人目の前にしたら、絶対そんなこと言えんやろ？

言葉は記憶に残り続ける凶器です。スケートボード女子パーク決勝で四位となった岡本碧優選手が、逆転を賭けて最後の特技に挑むも転倒。他国の選手が、駆け寄ってハグして担ぎ上げ彼女をほめ称える姿はとても感動的でした。スポーツマンシップの素晴らしさ、国境を感じさせない光景でした。互いを尊重する姿勢こそ、オリンピック精神だと僕は思います。「いがみ合う」ではなく「ただえ合う」ことの大切さを学びました。



青少年の健全育成作文・特選作品  
『正しいスマートフォン  
の使い方について』

坂出中二年 土田 晃大

僕はスマートフォンを持っています。いつも、友だちとの連絡に使ったり、ニュースを見たり、ゲー

Mをしたたり、動画を見たりしています。無意識にスマートフォンを使っている気がつくとき、気づいた時間があったりすることがあります。何気なく動画を見始めると、一つの動画が終わり、おもしろい動画が表示されます。おもしろい動画だと感じ、次の動画を見ます。その動画も見終わると、またおもしろい動画が新しく表示され、またそれを見てしまいます。卓球のラリーのように繰り返し見てしまい、疲れてしまいます。気づいたら学校や塾の宿題をする時間がなくなり、母に怒られます。

ある日、母に「香川県のゲーム条例があったよね、晃大知ってる？」と言われました。一日一時間で一週間で七時間、一か月にすると約三十一時間。一年にすると三百六十五時間、これを日数に直すと十五日。一年間で十五日も僕はスマートフォン画面を見ていることになりました。母にそう言われたくないなと思いました。十五日あつたら部活動で、ノックを何回受けられるだろう、キャッチボールやバッティング練習が何回できるだろうと思いました。十五日もまるまる時間を使ったら、充実した練習ができ、野球の技術も上がるだろうと思いました。

スマートフォンは便利です。ポタン一つで自分の欲しい情報が手に入ります。僕がスマートフォンを使っているようで、実際はス

スマートフォンに使われているように感じました。きちんとした目的を持たずにスマートフォンを使っているままに、僕が動いていたからです。

野球部では、練習の前に今日の練習の目的が何かを明確にしてから練習をスタートします。スマートフォンを使うときも目的を持ち利用することで、スマートフォンに使われるのではなく、僕がスマートフォンをきちんと使うことができると思います。時間は無限にあるのでありません。だからこそ時間を大事にしたいです。僕が考える正しいスマートフォンの使い方は、目的を決めてきちんと利用することです。これから僕は正しいスマートフォンの使い方を意識して使っていきます。



青少年の健全育成作文・特選作品  
『自分の心と向き合おう』

坂出中二年 徳田 雷斗

僕の家は、緑地帯の前。そのため、春には散ってしまった大量の桜、夏には蚊や虫、秋には落ち葉、冬には松の木の枝が家の前を荒らす。でも、それは僕の家だけではない。両隣の家の人たちも同

じだ。どちらの家に住んでいるのも、年をとったおじいさん、おばあさんだ。毎朝僕が学校へ行くとき、「行つてらっしゃい」と声をかけてくれ、立ち止まって話しかけてくれる。また、学校から帰ってきたときには、「お帰りなさい」と、優しく声をかけてくれる。とても優しい人たちだ。

ある日、僕は家の前の道の掃除を母に頼まれ、十五分ほどかけてきれいにした。まだ両隣の家の前には大量の落ち葉があった。しかし、僕は見て見ぬふりをして、家の中に入り、「掃除終わったよ。きれいになったよ」と母に軽々しく言った。母は、「ありがとう。買い物行つてくるね」と言い、家を出ていった。しかし、母はなかなか帰って来なかった。どこかで事故に遭ったのかなと心配に思い、家の外をのぞいてみた。よく見ると母の車があった。よかつたと心が落ち着いて、なぜこんなに遅くなったのかを聞こうとドアから出て母の方へ行くと、買い物袋とほうきとちりとりを持って「ごめん、心配かけた？」と息が上がった声が母が言った。僕は疑問に思い、「なんで、ほうきとちりとりを持つとん？」ととっさに聞いた。そうしたら母は、「横のおばあさんの家の前、掃除しよつたわー。いつもお世話になつとんのに何もできてないから、せめてと思つて落ち葉を掃いた。」と言つた。僕は数十分前の自分が恥ずかしいと思つ

た。その瞬間、その日から、今の自分を変えたいと思ひ、自分の心と向き合つて日々を過ごしている。

青少年の健全育成作文・特選作品

「スマホと家族」

東部中二年 横田 さくら

私はスマホを兄からお下がりでもらつてから、インスタ・ユーチューブ・ゲームアプリをするためにスマホを使うことが、多くなりました。ユーチューブやゲームアプリはひま潰しやあまつた時間をうめるために使つて、インスタは友達との連絡に使つていました。最初の方は、何も問題なくスマホを楽しく使つていたけれど、時間がたつたばに、スマホを手に持つことが多くなつていきました。親に注意をされる回数も増え、今まで使わなかつた食事の時間・勉強の時間まで、スマホを使うようになりなりました。使う時間が多くなつたせいで目も悪くなり、成績も下がつて親にスマホを禁止するよう言われました。

私は、自分でスマホを持つていると使つと思つたので、テスト期間の一週間だけ預けることにしました。この一週間は前の一週間と比べて全然違うことに気づきました。朝はあわてずにゆっくり食事ができ、起きる時間もいつもより早く目覚めもよかつたです。昼はいつもより眠たくならず授業に

集中でき、夜は家族と学校の話をしたり、一緒にテレビを見たりして、楽しい時間を過ごせました。家族との時間があつて、私はスマホの時間より家族と過ごす楽しい時間の方が大切で、大事にしなくてはいけないと気づきました。私は最初スマホに夢中で、ずっとスマホをさわつていて、親を無視してケンカになることもありました。

あのまま続けてスマホをさわつて大切なことに気づいていなくなつたら、今、家族との仲が悪くなつていたり、家族との時間がなくなつていたりしたかもしれないと思つとすごく悲しいです。自分の生活がスマホで変わつてしまわないように、使い方を見直すことが必要だと思ひました。

最近、ニュースや新聞でもスマホ依存についてとりあげられているのをよく見ます。家族との時間が三時間以上減少しているという記録や、家族との仲が悪くなつたというネットの記事を見たことがあります。私は、みんなにスマホの時間より大切な時間があることに気づいてほしいです。これからスマホを使う時間を少なくし、家族との大事な時間を長く過ごせるよう、スマホの使い方に気をつけたいです。



作文の部 入選者

- 小賀野 新 (東部小二年)
- 梶 辰光 (林田小三年)
- 西岡 風和 (東部小四年)
- 宮崎 慶悟 (東部小四年)
- 小新 梨織 (林田小四年)
- 矢野 由結 (川津小四年)
- 大西 蒼空 (東部小五年)
- 三谷 悠 (加茂小五年)
- 川田 真緒 (川津小五年)
- 上乃 香穂 (加茂小六年)
- 中元ほのか (坂出中一年)
- 安藤ひかり (附坂中二年)
- 大林 虹緒 (白峰中三年)
- 鎌田 雫玖 (白峰中三年)
- 宮井 咲穂 (白峰中三年)

